

指導教員名	羽藤雅彦
-------	------

活動区分	商品開発型	連携先	企業
	地域活性化型		自治体・団

# ～ 北陸カレッジ ～

## 活動の様子



小浜市から頂いた課題

**若年層の少なさ**  
若年層にとっての魅力が不足

**季節による集客数の差がある**  
冬場の誘客ポイントが少ない  
厳しい寒さ

## 企画・活動概要

JR西日本・自治体・大学が連携し、若者視点を活用した地域活性化、旅行需要の喚起、学生の成長機会の創出を目指す産官学のプロジェクトです。これまで北陸、南九州、新潟、瀬戸内エリア等で毎年実施してきました。一連の取組みを通して、参加学生と地元協力者の間で交流が生まれ、地域と連携強化の促進、大学生による若者目線での旅行プランや地元の課題解決に向けたアイデアの提案、および自主的な地元PRを展開しています。



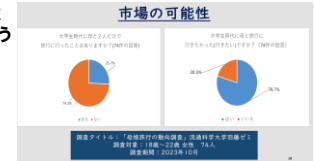
## 経緯・背景・目的

羽藤ゼミでは福井県小浜市と連携し、いかに地域の魅力を高め、自治体への観光客を誘致するかを検討した。



## 取り組む課題

小浜市への観光客は若年層が少なく、季節による集客数に大きな差がある。また、現地でのアクティビティ等も決して多くなく、現金を落とす機会が少ないという課題を抱えている。



## 本学(学生)の役割

本学の学生の役割は、小浜市の観光客が減少している理由を検討し、どうすればより多くの観光客を誘致することができるかをマーケティング的な考え方をを用いて提案することである。そのために、事前学習や現地研修を行い、徹底的に小浜市を分析している。また、提案が絵に描いた餅にならないように、小浜市の担当者と密なコミュニケーションを行い実現可能性を高めている。



## 活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

学生の視点から小浜市が抱える課題を発見し、その解決策を提案した。具体的には、(1)若年層の少なさ、(2)季節による集客数の差、(3)キャッシュポイントの少なさ等に注目し、それらを解決する提案を行った。彼/彼女らの提案は、母娘をターゲットにしたもので、現地でのアクティビティの改善、斬新なプロモーションを含んでいる。学生にとっては対面での大舞台での発表は初めてであり、自分たちのアイデアをより魅力的に見せるプレゼンを自分たちなりに考えることで様々な学びがあった。



## 指導教員および関係者の紹介



商学部  
マーケティング学科  
教授  
羽藤雅彦 (ハトウマサヒコ)  
＜専門・担当科目等＞  
消費者行動論

### ＜関係者・企業等＞

JR西日本、福井県小浜市